

わが国の「すまい」と「まち」の関係を問い直す

～横浜市金沢シーサイドタウン見学会＆討論会～

2016年

3月12日(土)

【見学会】定員 30名

13:00～15:00

金沢シーサイドタウン(横浜市金沢区)

■集合 12:50 シーサイドライン並木北駅

■UDCN並木ラボ(横浜市立大学地域拠点※)にて
約30分の説明後、まちあるき約1時間半

※UDCN並木ラボ

<https://www.facebook.com/namiki.ycu/>

【討論会】定員 70名

16:30～18:30

横浜市立大学金沢八景キャンパス ビデオホール

■受付 16:00～

■3名の登壇者による話題提供、フロアーとの
やりとりも含めた討論会

無料

横浜市立大学都市デザイン連続講座

1978年に入居が始まった金沢シーサイドタウンでは、豊かな自然環境の創出と歩行者専用道のネットワーク、建築家を登用した個性的な建築など、当時、最先端の都市デザインの導入が行われました。

横浜市立大学では、金沢シーサイドタウン内にまちづくりの拠点を設置し、当時の都市デザインを取組を振り返る講座を毎年度実施しており、今回はその4回目に当たります。

金沢シーサイドタウンの都市デザインを振り返り、その空間としての資産を再認識することで、これからのまちづくりにつなげていきましょう。



◇受講料 無料

◇定員 【見学会】30名 【討論会】70名

◇申込方法 氏名・所属・連絡先メールアドレス・「見学会のみ参加/討論会のみ参加/両方に参加」の別を明記し、下記メールまたは応募フォームからお申し込みください
※見学会、討論会、どちらかだけの参加も可
※申し込み多数の場合は、先着順

◇申込先 横浜市立大学 地域貢献担当 coc@yokohama-cu.ac.jp
(横浜市金沢区瀬戸2-2-2 横浜市立大学金沢八景キャンパス内)

◇主催 公立大学法人 横浜市立大学

応募フォーム
QRコード

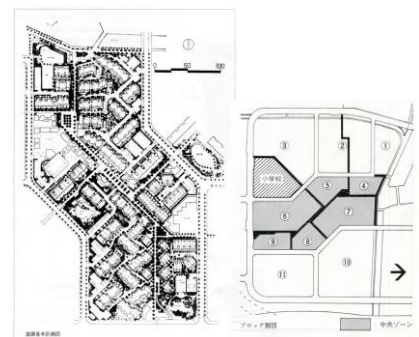
主 旨

わが国の市街地は、急速な近代化の過程で固有の様式というべき空間像を失い、混乱してきた。その一方で新たな市街地像を生み出そうとする試みも多々行われてきた。

いわゆるニュータウンでは、今日では高齢化や人口減少といったわが国の都市問題が顕著に表れてきているが、様々な意図や工夫のもと計画的に生み出され、今日の目で見ても魅力的な空間を持つ地区も多い。

横浜市南部の埋め立て地に位置する金沢シーサイドタウンは、横浜市の都市デザイン行政が発揮された初期の事例である。そこではすまいとまちの空間を魅力的に創りあげるために、様々な工夫が盛り込まれて開発が行われた。著名な建築家も多く関わったこの地区で「すまい」「まち」はいかなる意図のもとに作られたのか。また、現在の姿はいかなるもので、開発当時の思想・意図や工夫は今日の視点からどのように評価できるだろうか。

当事例の見学と討論を通じて、わが国の「すまい」と「まち」の形と関係を問い直し、今後のあり方を考える機会としたい。



見 学 対 象 地

金沢シーサイドタウン

横浜市金沢区
並木1丁目～3丁目

最寄駅

京浜急行線 京急富岡駅 シーサイドライン 並木北駅※
並木中央駅
幸浦駅
※3月12日(土) 見学会の集合駅



登壇者プロフィール

○**蓑原敬氏**（蓑原計画事務所）都市プランナー。1960年、建設省入省。1985年、蓑原計画事務所設立。地域計画、都市計画、都市デザインなどの分野でコンサルタント業務に携わる。金沢シーサイドタウンに関わった建築家に関する著作「建築家・大高正人の仕事」あり。

○**中野恒明氏**（アプル総合計画事務所・芝浦工業大学）都市デザイナー。1974年、東京大学都市工学科卒業後、榎総合計画事務所入所。金沢シーサイドタウンに携わる。1984年アプル総合計画事務所設立、現在まで代表。2005年より芝浦工業大学教授。

○**中島直人氏**（東京大学）都市計画研究家。2002年、東京大学助手・助教、2013年、慶應義塾大学准教授などを経て、2015年より東京大学准教授および慶應義塾大学特任准教授。博士（工学）。金沢シーサイドタウンに関わった建築家に関する著作「建築家・大高正人の仕事」あり。

○コーディネーター：中西正彦（横浜市立大学）